



きずな

K I Z U N A

特集
テーマ

高齢者

自分らしく いつまでも

- 
- 2 「介護をより良い経験にするために」
荒木由美子さん(タレント)
 - 3 「老若共同参画社会をめざして」
袖井孝子さん(お茶の水女子大学 名誉教授)
 - 4 「認知症への理解を深める」
加藤伸司さん(東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科 教授)
 - 5 「新たな豊かさを創造する地域社会の実現にむけて」
NPO法人 ソーシャルデザインセンター 淡路(南あわじ市)
 - 6 「認知症患者を地域で支える」
たつの介護福祉ねっと.(たつの市)
 - 7 「貧困やホームレスに対する偏見をいかに乗り越えるか」
垣田裕介さん(大分大学大学院福祉社会科学部 准教授)
 - 8 情報ぶらざ



介護をより 良い経験にするために

あら き ゆ み こ
タレント 荒木 由美子さん

高齢化が急速に進んでいる日本の社会では、高齢者の意欲や能力が活用される社会システムが求められています。一方、介護における虐待や孤立、高齢者を狙った犯罪など、人権に関わる多くの問題が起きています。

本号では、高齢者の尊厳が守られ、豊かな経験や知識が発揮される社会について考えてみましょう。

17歳で歌手としてデビューした荒木由美子さん。歌手でタレントの湯原昌幸さんと結婚して芸能界を引退。その後20年にわたり義母を介護し、2004(平成16)年から子育てと介護を終えて、芸能界に復帰されました。

Q 介護していたときに、大変だと思ったことは。

突然こちらが言っていることが通じなくなってしまうことです。「ご飯を食べさせてもらってない」「お金を盗られた」という言動が出るようになりました。やがて徘徊が始まり、目が離せなくなると、私は、精神的にも体力的にも追い詰められていきました。

Q 介護中の印象的なエピソードを教えてください。

義母にとって孫、宅配の人、郵便配達の人などの男性は皆、私の彼氏だと思っていたようで、やきもちをやいていました。そして後半は、私のことを「母ちゃん」と呼んで、子どもに戻っていたと思います。

最後に残してくれた、「本当にありがとう。これから由美ちゃんに悪いことはひとつもないから」という言葉が忘れられません。

Q 介護者に必要な支援とは。

介護している方たちの心のケアをしてあげることが大切だと思います。話を聞

いてくれる人、場所などを増やしてほしいです。最近では家族会、認知症カフェなども増えています。話を聞いてもらうだけでも負担が減って気持ちが軽くなると思います。

Q 介護世代へのメッセージを。

今の時代、同居することが少なくなり、両親が老いてきたことにも気付かない人が多くなりました。電話で話をしたり、時々会ったりして

・今まで出来ていたことが出来なくなっていないか
・怒りっぽくなっていないか
・表情がおかしくなっていないか
などに気付いてあげることがとても大切です。

介護が始まって、一人で抱え込まないようにしましょう。福祉のサービスや相談窓口を頼るのもいいですよ。

プロフィール

1960(昭和35)年、佐賀県生まれ。1976(昭和51)年、「第一回ホリプロタレントスカウトキャラバン」にて審査員特別賞を受賞し、芸能界入り。1983(昭和58)年、歌手でタレントの湯原昌幸さんと結婚後引退。20年に渡る義母の介護経験を元に、介護・家族の在り方などについて全国各地で講演活動を行う。近著に、『介護のミ・カ・タ。』(文芸社)がある。



老若共同参画社会を めざして

お茶の水女子大学名誉教授

そでいたかこ
袖井孝子さん

超高齢社会のイメージ

高齢人口が若者人口を上回り、75歳以上の後期高齢人口が65歳〜74歳の前期高齢人口を上回る超高齢社会について、人々はどんなイメージを描くのでしょうか。さまざまな機会をとらえて私は、「超高齢社会を色にたとえると、何色ですか」と尋ねることにしています。多くの人は、灰色と答えますが、なかには紫色とかベージュと答える人もいます。しかし、バラ色という人は一人もいません。

超高齢社会について、多くの人が灰色のイメージを抱く理由としては、次のような要因があげられます。第一は、労働力人口の高齢化と減少が生産性を低下させ、経済の活力を失わせることです。第二に、病気がちで介護を必要とする後期高齢者の増加は、医療や介護にかかる費用を増やし、そうした分野で働く人材の不足をもたらします。第三に、社会保険料を支払う人よりも、年金・医療・介護などのサービスを受ける人が増大し、社会保障制度の存続が危

うくなります。

固定的な高齢者像

超高齢社会に対する灰色のイメージは、高齢になると心身機能が低下し、他者からの援助を必要とするという固定的な高齢者像に由来しています。

しかし、去る6月12日に横浜で開催された第29回日本老年学会のシンポジウムで、秋下雅弘・東京大学教授は、近年、高齢者に多い脳血管障害や虚血性心疾患で治療を受けた人の割合が低下してきていると報告しています。また、鈴木隆雄・桜美林大学加齢・発達研究所長によると、2002(平成14)年に75〜79歳男性の歩く速度は、その10年前の10歳若いグループとほぼ同じであり、80歳以上女性も10年前の10歳若いグループとほぼ同じとのこと。

昔にくらべ現在の高齢者は、健康で身体能力にすぐれていることが明らかです。言い換えれば、高齢になっても、働いて収入を得ることで、税金や社会保険料を支払えるだけでなく、ボランティア活動を通じて社会に貢献するこ

ともできるのです。

老若共同参画社会の実現

2001(平成13)年に私は、定年後のサラリーマンたちとともにシニア社会学会を立ち上げました。メンバーの多くは、長年大企業に勤め、年金などの収入が保証されている方々でした。少子高齢化が進行する日本の現状を考えると、高齢者がサービスの受け手にとどまることは許されたいでしょう。できるだけ社会に参加し、参画することで活力ある高齢社会を築き上げたいというのが設立の趣旨でした。

このところ新聞や雑誌には、若者の将来不安をあまり、世代間の対立を強めるような記事や論文があふれています。高齢者も社会の支え手に回ることで、若者にかかる負担を軽減することが可能です。世代間の対立ではなく、連帯を生み出すような方策を見出し、「老若共同参画社会」が実現できるならば、超高齢社会の到来を恐れることはありません。

プロフィール

東京家政学院大学客員教授、一般社団法人シニア社会学会会長、一般社団法人コミュニティネットワーク協会会長、NPO法人高齢社会をよくする女性の会副理事長。2004(平成16)年からお茶の水女子大学名誉教授。主な著書に『高齢者は社会的弱者なのか』(ミネルヴァ書房)、『女の活路 男の末路』(中央法規)がある。



認知症への理解を深める

認知症の実態

現在わが国には、*462万人の認知症の人がいるといわれています。これは兵庫県の人口の約83%にあたる数です。認知症は、歳をとれば誰でもなる病気ではありませんが、年齢が高いほど発症の確率は高くなり、80代後半になると有病率は*41.4%となります。つまり、高齢夫婦のどちらか一方に起こる可能性がある病気といえるのです。

認知症の症状

認知症には、いくつもの種類がありますが、最も多いのがアルツハイマー型認知症で、全体の6割以上を占めています。人は歳をとると、忘れっぽくなりますが、一般のもの忘れは、体験の一部分を忘れるに過ぎません。一方、認知症では、体験全体のもの忘れが起こります。朝食で何を食べたかを忘れるのではなく、朝食を食べたこと自体を忘れるようになるのです。このような意味で、自分が忘れていたということに気づくことが少ないのも特徴でしょう。また時間や場所、よく知っている人の見当がつかなくなってきた

東北福祉大学総合福祉学部
福祉心理学科 教授

加藤 伸司さん
かとう しんじ

ます(見当識障害)。これらの症状が現れてくるため、日常生活を一人で営むことが難しくなってきます。

認知症の人の心理

認知症は本人にとっても家族にとつてもつらい病気です。なぜならば、忘れたいことを忘れるのではなく、忘れたくないことも忘れてしまつからです。自分が何をしていたのか思い出せないことや、ここがどこなのか分からないうような症状は、認知症の人を不安にさせます。また思い出せそうなのに思い出せない不快感、思い通りに事が運ばないことによる焦燥感など、さまざまな心理的問題を抱えながら生活しているのです。

認知症の予防

現在アルツハイマー型認知症に対する根本的な治療法はありませんが、薬によつて進行を遅らせることは可能です。予防に関しては、いろいろな説がありますが、これを行っていただ丈夫というものはありません。しかし、生活習慣病の予防が認知症の予防にもつながるといことは事実です。また適度な運動や社会活動、バランス

のいい食事、30分程度の昼寝の習慣なども有効といわれます。

介護家族の心構え

介護する家族の心構えとしては、まず家族が認知症という病気を知ること、一人で抱え込まず手伝つてくれる人を見つけること、サービスを上手に利用すること、相談できる場所や愚痴をこぼせる相手を見つけることなどが大切です。何より、介護する家族自身が健康でいることが最も大切であるということを理解してください。

*出典)朝田隆ほか「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」総合研究報告書(2013)

プロフィール

1956(昭和31)年生まれ。聖マリアンナ医科大学病院臨床心理士、北海道医療大学看護福祉学部臨床心理学専攻講師、助教授を経て現職。認知症介護研究・研修仙台センター長を兼ねる。認知症ケア学会、日本老年精神医学会、日本老年社会学会の理事を務める。著書には、「認知症の人を知る～認知症の人は何を思い、どのような行動をとるのか～」(ワールドプランニング社)などがある。



兵庫県民総合相談センター

認知症・高齢者相談窓口

介護経験者による高齢者とその家族の悩み・心配事相談や、看護師による介護方法等に関する相談窓口です。

TEL 078(360)8477

*相談日は年末年始、休日を除きます。

窓 口	相談日	相談時間
家族の会会員による相談	月・金	10:00~12:00
看護師等による相談	水・木	13:00~16:00



NPO法人
ソーシャルデザインセンター
淡路(南あわじ市)
Social Design Center Awaji

新たな豊かさを 創造する地域社会の 実現にむけて

「NPO法人 ソーシャルデザインセンター
淡路」は、「誰もが仕事や役割をもち、みんながい
きいきと笑顔で暮らせる淡路島」を合言葉に、
さまざまな活動に取り組んでいます。

高齢者の力で就労弱者を支援

「就労弱者を支援したい」、木田代表の思いを
形にした取り組みが、ジョブパートナー事業で
す。子育て中の母親や障害のある人、引きこもり
の若者など就労弱者と呼ばれる人たちにとつ
て、就職や就労継続が難しい現状があります。ま
た、就職してもすぐに解雇となり、その結果、引

きこもってしまうケースも多いといっています。当N
POでは、そのような就労弱者を高齢者(ジョブ
パートナー)が支援する活動を展開しています。
就労弱者とともにチームを組んで勤務し、そ
の人の特性の理解に努めながら、就業に必要な
アドバイスをを行っています。主に退職後の高齢
者が、ジョブパートナーを務めています。

多様な働き方を推奨

主な就労業務は、吉備国際大学南あわじ志知
キャンパス構内の清掃です。大学職員からは、仕
事が丁寧だと好評で、これらの評価は、就労弱者
やジョブパートナー双方の意欲向上につながっ
ています。

同NPOでは、就労への自信が持てるように、
「人が幸せになる働き方」を実践しています。た
とえば、契約期間は短く設定し、やり遂げたとい
う達成感を積み重ねられるようにしています。
また、就労弱者とジョブパートナーともに勤務
時間などの無理なく働ける条件を自分で決める
ことができます。

「培った経験を生かして働きたい。でも、自由
な時間も満喫したい」ジョブパートナー事業は、
そんな高齢者のニーズにも合っています。□コ
ミで広がり、現在は14名が、ジョブパートナーと
して在籍しています。

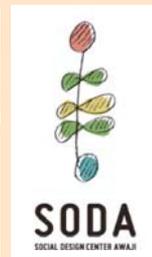
皆がつながる地域づくり

最近では、就労希望の問い合わせが増えてしま
したが、就労場所に限りがあるために、受け入れ
られないことが課題です。木田代表は、地域資源
を生かした、新しい就労機会を作り出そうとし
ています。現在は、地域の方々に協力していただ
き、淡路島の特産物を詰め合わせて販売してい

ます。物品の運搬、選別、箱詰め等の作業で雇用
を作り出しています。

「環境を整えば、働ける人は多い。多様な働き
方を浸透させ、皆が社会とのかかわりをつない
でいけるように支援したい」と活動の幅が広
がっています。

作業を通じて、つながりが深まります。内容によっては、
アドバイスする立場が逆転することも。



SODAの取り組み 3つの柱

未来の仕事づくり

社会をデザインする

市民社会の実現

活動の詳細は「SODA 淡路」で検索。

南あわじ市神代地頭方1538番地1
TEL&FAX 07999(42)0399





たつの介護福祉ねっと。
(たつの市)

認知症患者を 地域で支える

「たつの介護福祉ねっと」は、2013(平成25)年5月、介護サービスの利用者や家族、現場で働く職員等を支援する市民団体のネットワークを作るため、市内で活動する8団体と有志が集まり結成されました。

介護にまつわる負担軽減のために

発起人は、高齢者福祉を考える住民の会「こべら」代表の丸尾さん。介護福祉士の資格を持つ丸尾代表は、介護者から相談を受けることが多くありました。相談を受けながら傾聴することとは大切だけれど、「介護者は具体的な解決策を求めている」と感じていま

した。

そこで、介護者を支援する団体等が、一つの課題に多角的に関わり、それぞれの強みを生かして解決策を考える仕組みを作りたいと、連絡協議会的な役割を果たす同団体を立ち上げました。

介護情報を身近に

介護は突然やってきますが、介護初心者にとっては、介護の情報をどうやって集めるのかわかりません。同団体は、たつの市内を中心とした介護にまつわる情報を整理してまとめ、情報発信しています。インターネットで「たつの介護福祉ねっと」で検索すれば、介護保険制度や利用できる福祉施設等の情報を得ることができます。

他には介護の最新情報を学ぶことを目的にした「みんなの介護福祉フォーラム」を開催しています。歩行器具やベッドなどの福祉用具を実際に体験できるコーナーや、転倒防止のためのフットケアの講習などを実施してきました。「介護をより身近に感じられる」と参加者にも好評です。

人々が集う場・機会を提供

丸尾代表は、認知症カフェや認知症のことを学ぶ認知症セミナーを開催しています。認知症セミナーでは、テキストを読み進めながら、認知症の方を理解するための基礎知識を身につけます。参加者は、当事者や介護者、認知症に関心がある人など、

みや情報を共有し、先輩介護者がアドバイスを伝える場にもなっています。「同じ立場で話せる機会は、介護のストレス解消になる」と滋賀県から通ってくる人もいます。

「今後は、たつの市で認知症の方が主役になれるイベントを開催したい」と丸尾代表。地域の人の認知症への関心もさらに高まるのではと考えています。開催に向けて、市内に3,000人いるという*認知症サポーターに協力を呼びかけたいと抱負を語ります。

*認知症について正しい知識を持ち、認知症の人と家族を温かく見守る応援者

たつの市龍野町本町47番地
0791(62)2410

「たつの介護福祉ねっと」で検索



認知症セミナーの様子(市内の喫茶店で)

テキストを使いながら、認知症について学びます。介護について語り合う場にもなっています。

新着図書紹介

書籍

認知症・行方不明者 1万人の衝撃



著者 NHK「認知症・行方不明者
1万人」取材班
発行所 幻冬舎

日本人にとって、国民的な病のひとつとなっている認知症。今や65歳以上の4人に1人が認知症とその予備軍といわれています。また、認知症やその疑いがあり、徘徊などで行方不明になった人は年間およそ1万人となります。

本書では、取材を通じて、認知症による徘徊で行方不明となっている肉親を捜し続ける家族の苦しみや、身元を確認する仕組みの課題などについてまとめられています。

超高齢社会に突入した日本で、誰もが当事者となり得る問題について、警察・自治体・家族への膨大なアンケートを実施し、知られざる実態と解決策を提示しています。

認知症の人を介護する家族に向けて、医療・介護の専門家が教える認知症ケアのポイントも丁寧に解説しています。

貧困やホームレスに対する

偏見をいかに乗り越えるか

子どもの貧困、大人の貧困

貧困の調査や研究に携わるなかで、貧困をめぐる様々な意見にふれる機会があります。その一例は、昨今注目を集めている子ども貧困をめぐめるもので、それは「おおむね同情的であり、「子どもに罪はない」といわれます。では、大人には罪があるのでしょうか。

子どもの貧困に対する同情的な見解の対極にあるのは、大人の貧困に対する偏見やバッシングです。特に、ホームレスについては、「怠け者」とか「好きでやっている」などという意見（「怠け者論」をよく耳にします。しかし、「こうした意見は、実は理屈の面でも実態の面でも説明がつきません。

「怠け者論」は、実は不自然

まず理屈の面のみでみましょう。厚生労働省が公表した2003(平成15)年の調査結果をみると、当時のホームレス数は全国に25,296人で、大都市部に集中し、男性が95%を占め、50歳以上の中高年が80%、5年以内にホームレスになった人が85%です。

この調査結果を、ホームレスは「怠け者」とか「好きでやっている」という意見と照らし合わせてみましょう。すると、怠け者でホームレス生活を好むようになった中高年男性が、突如として5年の間に大都市で急増したということになります。これは極めて不自然で、説明のつかないことが分かります。

「怠け者論」は、何より実態と異なる

次に実態の面をいえば、私が全国各地でホームレスの方々に行った聞き取り調査や、他の様々な調査結果をみると、ホームレス状態に至った経緯には、倒産やリストラ等による失業が関わっているケースが大半で、障がいや病気なども複合的に絡んでいます。以上のように、ホームレスは「怠け者」とか「好きでやっている」という意

プロフィール



1976(昭和51)年、大阪府堺市生まれ。同志社大学文学部社会学科卒業、大阪府立大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。2004(平成16)年に大分大学講師、2007(平成19)年より現職。他にNPO法人ホームレス支援全国ネットワーク理事を務める。著書に『地方都市のホームレス』(単著、法律文化社)、『生活困窮者への伴走型支援』(共著、明石書店)等がある。

偏見を乗り越える手立て

大人の貧困やホームレスについても、子どもの貧困と同様に、偏見を挟み込まず、貧困そのものの深刻さや支援の必要性に向き合う目、社会でより共有されるように、今後地道に調査や研究をとおして実態を明らかにし、貧困を見る視点を提起し続けていきたいと思えます。これも、貧困をめぐる偏見を解消し、乗り越えるための手立ての一つと考えています。

映画紹介

群青色の、とおり道

ミュージシャンとして生きたいこの夢のため、父親の反対を押し切って上京していた佳幸は、その父親からの電話を受けて、10年ぶりに帰郷することになります。彼は様々な再会をします。胃がんの告知を受けた町工場を経営する父、相変わらずやさしい母、兄の勝手さに憤りを見せる高校生になった妹、そしてかつての同級生たち。彼らの変わりのなさ、とりわけ佳幸の影響で音楽教師になっていた唯香が示す好意などが、自分を支えてくれていくことに気づいていきます。

そんな彼らや街の人たちが情熱を燃やすねばた祭りに合わせて、クライマックスを迎えます。佳幸はやっとめぐってきたミュージシャンとしてのチャンスを捨てて、祭りのステージで歌います。10年前には途中までしか出来なかつた、やつと今故郷で完成した曲を披露しながら、地域で生きることを選択していきます。

群馬県太田市の合併10周年記念作品で、太田市内でのロケも効果的です。ハコモノではなく、映画作品という素敵な記念もアイデアだなと思えます。

9月下旬頃に元町映画館にて公開されます。



監督: 佐々部清
出演: 桐山蓮、升毅、杉野希妃 他
105分

●お問い合わせ
元町映画館
078(366)2636

きずなトピック

大分大学大学院
福祉社会科学部 准教授
かき た ゆう すけ
垣田 裕介 さん

ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2015 in こうべ を盛大に開催

情報 ぷらざ

去る8月8日(土)、兵庫県立文化体育館に約2,700人が集い「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2015 in こうべ」が開催されました。地元の神戸市立西代中学校吹奏楽部によるウェルカム演奏、県立夢野台高等学校バトン部の演技に続いて、ひょうご人権大使伊東浩司さんの開会宣言によって幕を開けました。オープニングステージでは、神戸市立西灘小学校児童とともに手話を交えた「しあわせ運べるように」を大合唱しました。

人権講演会は、テレビでおなじみのジェフ・バーグラウンドさんによる「OH! 家族 ジェフ・バーグラウンドと考える家族と子育て」。ふれあいステージでは、地元団体の竹製楽器アングルンやコリアの伝統打楽器サムルノリ演奏、ジャズやクワイアで大盛り上がりでした。このほか、DISNEY「アナと雪の女王」にも多くの皆さんが集いました。ニンニンジャーによるショーや子ども多文化共生教育フォーラム、子どもじんけんサッカー教室も開催され、人権について考える楽しい一日となりました。



オープニングには、はばタンらマスコットキャラクターも登場しました。



ジェフ・バーグラウンドさんは、自身の経験をもとに、人権について、観客に楽しく語りかけました。

イベントガイド

芦屋市 ヒューマンライツシアター	日時 9月12日(土) ①10時から②14時から ※上映時間の30分前開場 場所 芦屋市立上宮川文化センター ※JR神戸線「芦屋」駅から徒歩5分 映画上映 「グレートデイズ!」	問い合わせ 芦屋市立上宮川文化センター TEL 0797 (22) 9229
香美町 村岡区人権講演会	日時 9月20日(日) 13:30~15:15 ※受付は13:00から 場所 村岡老人福祉センター大集会室 ※全但バス「村岡地域局」下車3分 講演と落語「みんな違う顔、でも同じハート」 ●笑福亭松枝さん(落語家)	問い合わせ 香美町村岡地域局 TEL 0796 (94) 0321
西宮市 男女共同参画センター ウェーブ	日時 9月25日(金) 1部 10:00~12:00 2部 18:30~20:30 場所 西宮市男女共同参画センターウェーブ ※阪急「西宮北口」駅下車南口から約100m 保育付上映会 「人生、ここにあり!!」※電話、FAX、Eメールにて申込(上映会は9/24、保育は9/17まで)①保育付上映会②お名前③連絡先④年代⑤保育希望の方はお子さんの名前と年齢をご記入ください。	問い合わせ 西宮市男女共同参画センター ウェーブ TEL 0798 (64) 9495 FAX 0798 (64) 9496 Eメール vo_jyosei@nishi.or.jp

インターネット動画配信中「人権文化をすすめる県民運動」の様態を更新しました!

人権文化をすすめる 動画



あたたかい ことばにこころ はげまされ
(神戸市 いだてんさん)

同じ道 年を重ねる おもいやり
(神戸市 藤田幸子さん)

人権に関する川柳を募集します!

いずれかのテーマに当てはまる川柳を募集します。
優秀作品は「きずな」に掲載し、オリジナルクリアファイルをプレゼント。

募集テーマ ネット社会、障害のある人、つながりづくり

応募方法 はがきか、ファクス、メールで受け付け。
郵便番号、住所、名前(ペンネームの場合も併記)、年齢を明記のうえ、ご応募ください。10月2日(金)締め切り。(応募はお1人1点とします。)

インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品に限ります。

応募先 (公財)兵庫県人権啓発協会(下記参照)



認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)には、認知症の人の意思が尊重され、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる社会の実現を

めざすことが記されています。

超高齢化は、地域や社会の姿を大きく変えます。誰もが安心できる老いを過ごせるように知恵を出し合うことが大切だと思います。また、編集で関わった皆さまのように、すでに将来を見越した活動を始めている方々がたくさんおられることに心強さを感じます。

私たち、一人ひとりが、到来する高齢社会のフロントランナーであることを自覚し、世界に誇れる超高齢社会を実現していきたいものです。

(小池)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじく会館内
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp

兵庫県人権啓発協会

検索

2015(平成27)年9月発行